

# 手をつなぐ

題字 藤本利夫書

1988年7月9日創刊  
 発行2015年4月1日 <毎月1日発行>  
**滋賀県民主教育研究所**  
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目  
 11-3 教育文化会館2F  
 TEL & FAX 077-525-5364  
 教育110番 077-523-3715  
 eメールshiga.minken@gmail.com  
 HP:http://shiga-minken.jimdo.com/  
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)  
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576  
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256  
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

## 『人事評価制度』の先に見える学校

山岡雅博 (立命館大学)



昨年「地方公務員法」が改正され、2016年度から、全国で人事評価制度を本格実施し、「職務と責任」に応じた給与支給がおこなわれるようになる。東京都の場合は人事評価制度に伴う「査定昇給制度」が2006年度から実施されている。滋賀県の「自己評価シート」にあたる「自己申告書」の提出とそれの際の校長面接が年間3回おこなわれている。その「自己評価」と面接を基に校長が「絶対評価」し、教育長が「相対評価」することによって昇給等に反映させている。さらに東京では、校長の「人事構想」に合わない教員は着任後1年から異動させることができる。また、2008年度からは統括校長、校長、副校長、主幹、主任教諭、教諭という6階級の職層が制度化されており、ピラミッド構造による学校管理を強固なものにしている。

この様に校長の権限が拡大・強化される一方、東京では校長に対する人事評価制度は1995年から実施されており、「一般の教師以上に、管理職の方が、『評価制度や圧力』に敏感である」という報告もある。つまり、教師に対する管

理強化は校長を含めた学校全体に対するものであり、その上には自治体や国家があり、時の教育行政による学校教育への介入と考えるべきである。さらに最も大きい問題は、学校を管理下に置き、子どもたちを政財界の求める人材として育成しようとしている点である。子どもたちは、社会を構成する主体として現状を批判的に見詰め、よりよい社会を創る主体として育てなければならぬ。第2期「教育振興基本計画」で言われる「社会を生き抜く力」とは、格差社会の底辺にあっても「自己責任論」でがまんさせ、「未来への飛躍を実現する人材」とは国際競争力を強化する一部エリートの子育てと見えてくる。

「子どもを育てる」ことに関しては、様々な思想信条を超えて協力することができるはずである。生まれ落ちた我が子を抱きしめて、健やかに育ててほしいと願う親心は万人に共通である。ところが、親自身が過酷な格差社会に巻き込まれ、我が子には先頭を走り続けることを期待し、追い詰めてしまうこともある。また、普通に生活することすらままならず、子

育でどこまでではない親たちの問題も深刻である。成長の過程で必要な失敗もさせず、管理を徹底させ、上級生になるにしたがって「同じ顔のよい子」を育てる学校が見えてくる。私たちの学校では、いろんな失敗をくぐり、上級生ほど自分らしい表情に輝く子どもを育てたい。

校長や保護者とともに、「何のために、誰のために教育をするのか」という論議を展開しつつ、協働して私たちの願う教育を実践することが、今こそ必要だと思う。

(やまおか まさひろ)



### 《 今月の紙面 》

- ・「人事評価制度」の先に見える学校 / 山岡 雅博 …P1
- ・2014年度滋賀民研研究集会シンポ「子どもとともに生きる教師・その希望」から / 村方 翼 …P2, 3
- ・体育の学習集団論と授業研究の方法 / 加登本 仁 …P4, 5
- ・『彦根市史』問題～ 歴史記述への政治介入 / 三羽 光彦 …P6
- ・新米中学特別支援学級担任 私の場合(前号の続き) / 木平 修和 …P7
- ・教育動向 1・2月 / 丹部 …P8